

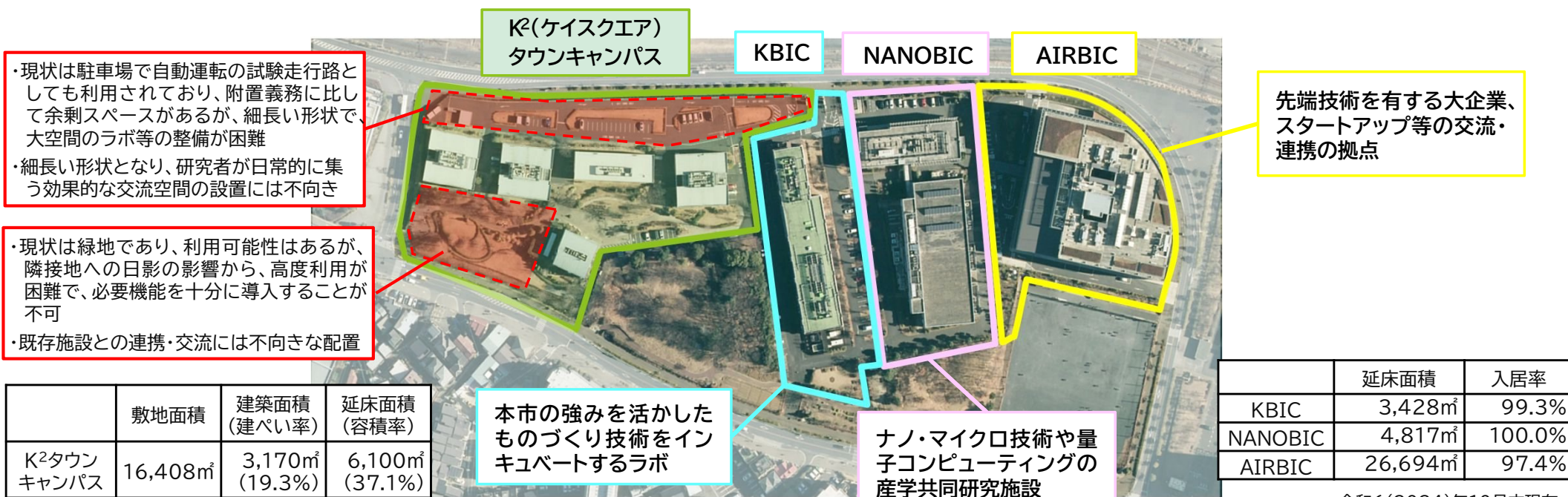
04

土地利用・整備の方針

4-1 基本方針を踏まえた施設整備の方針、範囲

施設整備の方針・範囲

- 創造のもりの既存の施設はインキュベーション施設としてほぼ満床状態の高い稼働率を維持しており、既存の居室を転用しての新たな機能の導入は困難な状況です。
- 機能更新の対象エリアの中心であるK²タウンキャンパスは、現状の建ぺい率が地区計画に基づく上限の50%に対して19.3%、容積率は上限の300%に対して37.1%であり、建ぺい率・容積率上は新たな施設の整備の余地がありますが、検証の結果、隣接地への日影規制の影響や敷地形状などから、余剰地を活用した増築では、今回の機能更新で求められる、研究の拡張性、柔軟性、可変性のある大空間のラボや、経済安全保障に配慮したセキュリティ、効果的な交流空間等の必要機能を十分に充足し、導入することが困難です。
- こうしたことから、創造のもりの機能更新においては、K²タウンキャンパスの既存施設を解体し、K²タウンキャンパスの敷地を対象に新たな施設の整備を行うことで、機能更新の効果の最大化を図り、高度人材が集積するイノベーション拠点の形成や地域に開かれた憩いの空間の形成等の実現を目指します。

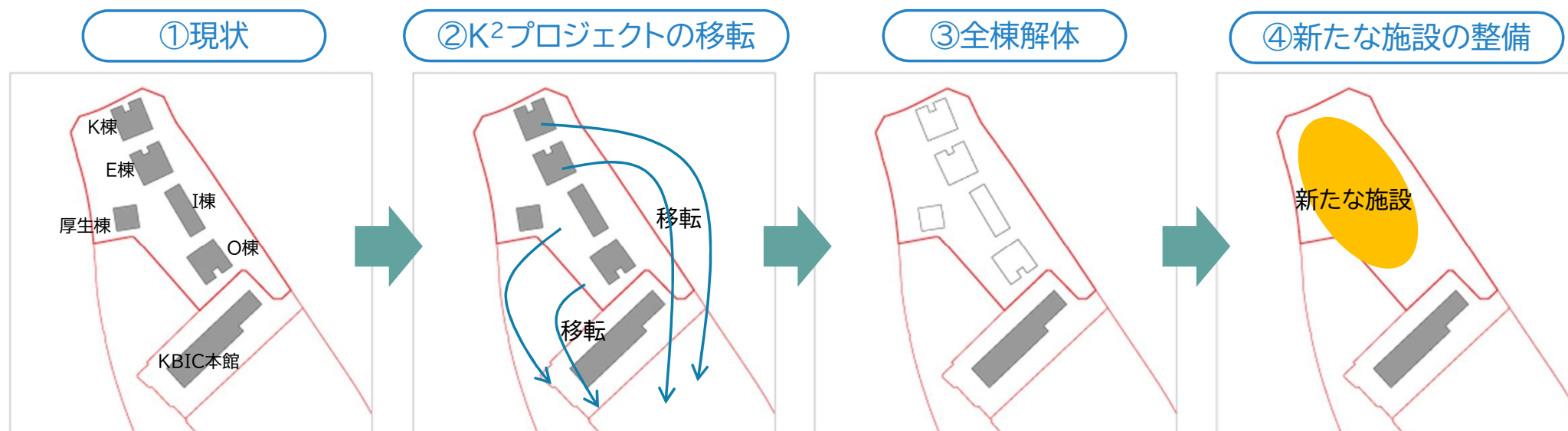


4-1 基本方針を踏まえた施設整備の方針、範囲

○必要な機能の導入について、既存施設の中では導入・充足が難しいことから、K²タウンキャンパス敷地の既存建物を解体し、新たな施設を整備します。

- 新たな施設整備に関して、時機を逸することなく本市が目指すイノベーション・エコシステム形成を可能な限り早期に実現するため、**新たな施設の整備対象エリアを現在のK²タウンキャンパスの敷地に設定**
- K²タウンキャンパス敷地において土地の高度利用を図るため、**既存の鉄骨造2階建ての建物5棟(K・E・I・Oの研究棟4棟、厚生棟1棟)を解体し、新たな施設を整備**
- **既存建物の解体と新たな施設の整備を一体的に行い、工期の短縮と事業の効率化を推進**
- 新棟整備に伴い、現在K²タウンキャンパスで展開されている研究プロジェクトは一時的に移転が必要であり、研究活動の維持、影響の最小化を図りながら、本事業を遅滞なく進捗させるため、**新川崎・創造のもりの敷地を活用しながら順次移転先を確保**
- 移転先は、既存施設(KBIC本館、NANOBIC、AIRBIC)と、KBIC敷地内に一時的な受け皿としての機能を果たす小規模プレハブラボの設置を想定

施設整備のステップのイメージ



4-2 新川崎・創造のもり全体の機能強化

○新たな施設と既存施設(KBIC本館、NANOBIK、AIRBIC)との接続による新川崎・創造のもり全体でのシームレスな活動拠点の確保と、施設間の交流・連携の活性化による企業の成長促進機能の強化により、新川崎・創造のもり全体での拠点価値の最大化を図ります。

- 新たな施設において、起業初期段階の起業家、研究者の活動場所を設け、アイデアの熟成とものづくりの試作が可能な機能を導入
- また、大学発スタートアップのラボなど、アカデミアのシーズを社会実装につなげるための基盤となるスペースを整備
- 本市が有する既存のインキュベーション施設(KBIC本館、NANOBIK、AIRBIC)を活用し、練り上げられた研究開発のシーズをもとに事業を成長の軌道に乗せる
- 既存施設で成長した企業が活動スペースを拡張する段階で、新たな施設に移り、安定した環境で研究開発を加速させ、更なる事業拡大につなげる

新川崎・創造のもり

新たな施設

大学・大学発スタートアップ・起業初期

- ・起業前、起業初期の活動場所
- ・大学発スタートアップのラボ
- ・若者がアイデアをカタチにする場所



中核テナント・プロジェクト・成長企業
活動スペースを拡張し、研究開発の加速
とビジネスの拡大

「知」、「技術」、「人材」
の交流

成長

成長

既存施設

インキュベーション

シーズをもとに研究開発を加速、事業を成長の軌道に乗せる

KBIC本館



小～大規模ラボまで備え、研究開発型スタートアップ支援に特化

NANOBIK



クリーンルームを備えた、次世代コンピューティング分野のスタートアップ支援の強化

AIRBIC



中規模ラボを豊富に揃えた、幅広い技術領域のアーリーステージのスタートアップの活動拠点としての機能

4-3 敷地条件の整理

- 対象エリアは新川崎地区地区計画が定められており、高さ制限や緑化率等の基準が別途規定されていることから、土地利用にあたってはこれらに留意が必要です。
- 必要機能の導入や、地域に開かれた空間の形成、配置プラン・適正規模の整理を行い、その実現に必要な都市計画等の変更について検討します。

- 新川崎地区地区計画(D地区)

項 目	新川崎地区地区計画による条件
所在地	川崎市幸区新川崎7番
用途の制限	学校・図書館(その他これらに類するもの)、事務所、集会所、研究所、倉庫(倉庫業を営むものを除く)、公衆便所等公益上必要な建築物、その他これらに付属するもの以外は建築不可
容積率	300%
建ぺい率	50%(緩和条項により最大70%まで可)
高さの 最高限度	建物高さ45m以下 <参考> ・K²、KBIC本館、NANOBIIC 2階建 ・AIRBIC 5階建 (E地区)富士通(株) 6階建
日影規制	4m平面、5h・3h
緑化率	敷地面積の25%以上
壁面の位置の 制限	制限あり(西側敷地境界線から10mの範囲は建築不可) 実質的な建築可能範囲は、約14,300㎡
その他	新川崎都市景観形成地区

4-4 さいわいふるさと公園との一体的な緑地形成と回遊性の向上

○研究施設エリアと公園との境界を感じさせないボーダレスな空間の形成を図ります。

- 緑化率以上に緑を感じられる緑視率の向上に向けて、対象敷地内の緑の配置等を工夫
- 現在のさいわいふるさと公園の魅力等を活かしつつ、他の事例等を参考に、敷地境界を感じさせない一体性のある緑地空間を形成
- 回遊性を向上させるための動線の配置等を工夫
- 創造のもりエリアについて、実証フィールドでの活用や、イベント利用できるよう開放的な空間設計も工夫

立命館大学いばらきキャンパスの事例

隣接する公園との間には塀がなく、市民開放施設も設置するなど、地域・社会に開かれた空間を整備し、まちと一体化したキャンパスを形成



出典：UR都市機構HP



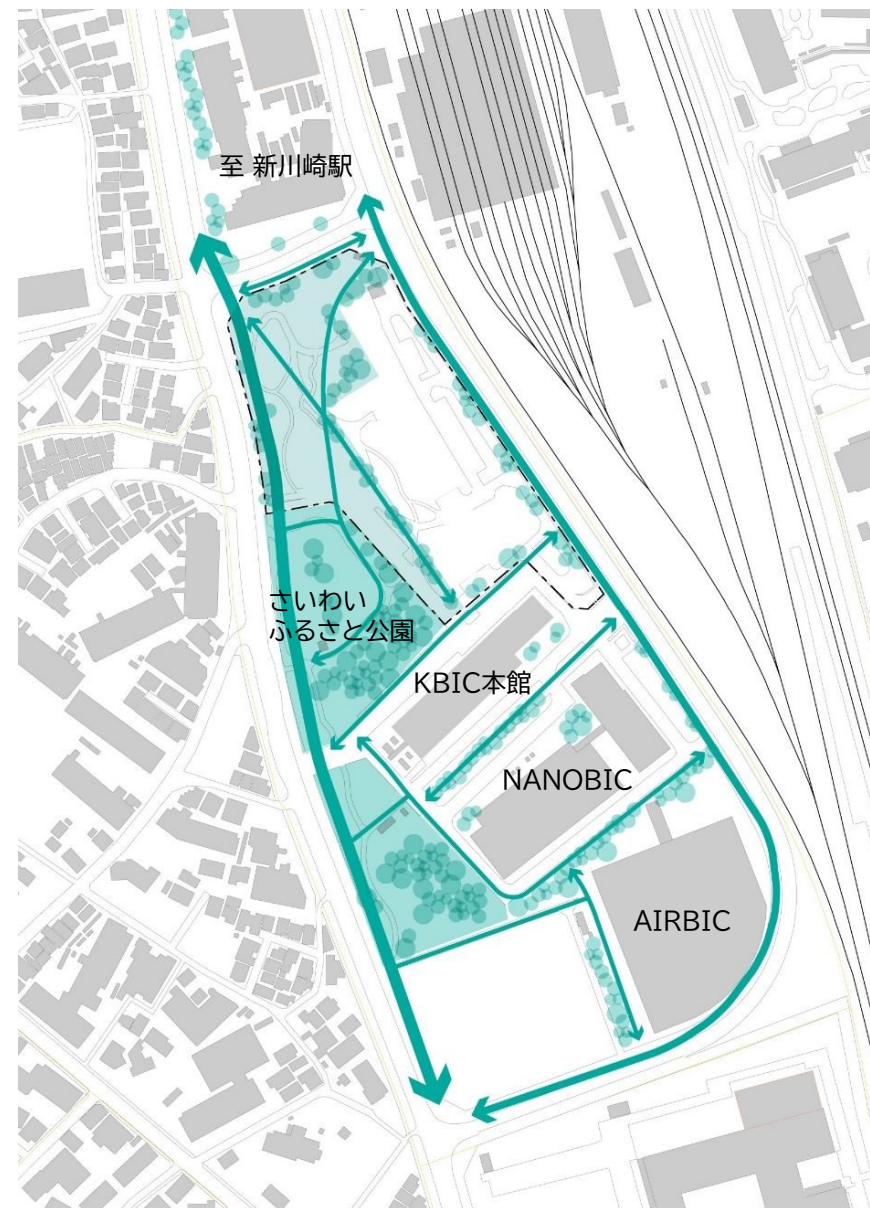
出典：竹中工務店HP

川崎区 キングスカイフロントの事例

隣接する南北2つの街区公園を緑のプロムナード(遊歩道)でつなぎ、誰もが自由に回遊できる官民境界のない一体的な緑地空間を形成



出典：大和ハウス工業HP





コラム⑦ 新川崎地区ネットワーク協議会

- 新川崎地区は、グローバルに活躍する事業会社や新技術・新製品を開発する中小企業・スタートアップ、最先端の研究を行う大学等が立地する地域です。
- こうした新川崎地区の産業集積とポテンシャルを活かし、産学官連携による新たな産業創出をめざすため、平成24(2012)年に地区内の企業や大学等によるネットワーク組織「新川崎地区ネットワーク協議会」を設立しました。
- 本協議会は、現在、「新川崎・創造のもり」を中心に企業92社、大学、関係機関等から構成されています（令和6(2024)年10月現在）。
- 会員企業の研究開発の成果について積極的な情報発信を行うとともに、産学連携、産産連携による新たな技術開発の促進など、新川崎発のイノベーションの創出に向けた活動を行っています。

出合いの機会の創出

- 展示会、ピッチイベント、事業所訪問など様々なスタイルで交流機会を提供
- 新川崎の最先端の研究成果のみならず、様々な分野のトップランナーである研究者・スタートアップ、彼らを支える事業会社や投資家などが集い、ここでしか出会えない人・情報が集積する場を提供し、産学連携、産産連携による新たな技術開発のきっかけを創出



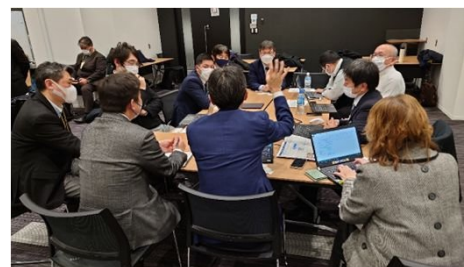
交流促進

- アイデアを持ち寄ったり、情報の交換をしたりと、「顔の見える関係」を作るための場を提供
- 様々な業種が集う場だからこそできる、新たなネットワークづくりを支援



研究支援・事業支援

- 新川崎・創造のもりに集うナノ・マイクロ技術の専門家、高度な技術を有するものづくり企業の集積等の新川崎地区のポテンシャルを最大限に活かし、試作相談会や勉強会などを開催し、新たな挑戦を行うイノベーター達の研究・事業活動を支援

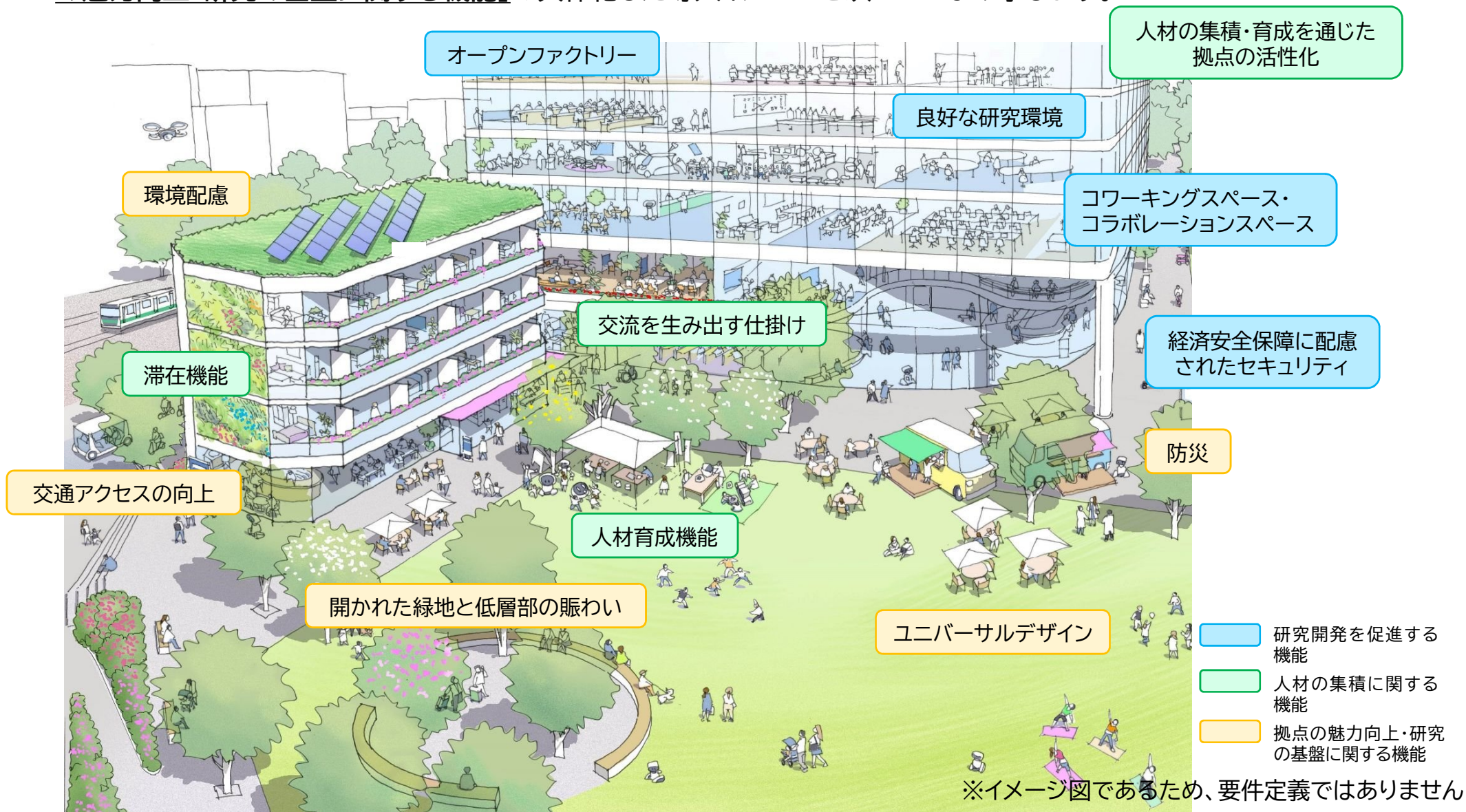


05

導入機能の整理

5 導入機能の整理

〇3-2-③で整理した「必要と考えられる機能」について、「研究開発を促進する機能」、「人材の集積に関する機能」、「拠点の魅力向上・研究の基盤に関する機能」の具体化した導入イメージを次ページより示します。



5-1 研究開発を促進する機能 –①研究開発を加速する良好な研究環境

○大学をはじめ、大企業や中小企業、スタートアップなど多様な主体が集い、連携しやすい、様々な研究ニーズに対応可能な柔軟性、伸縮性を有する研究環境を構築します。

- 研究の効率性、拡張性を実現するため、1フロアの床面積を最大限広く確保したラボスペースの整備
- 多様な研究・プロジェクトに合わせてフレキシブルに対応可能な長スパンによる無柱の大空間を計画
- 大学のほか、大企業、中小企業・スタートアップなど、様々な事業規模、研究段階の企業等を受け入れられるバリエーションに富んだ面積のラボの整備
- 将来的な研究環境の変化に備え、電気・ガス・水道・通信などのインフラの容量や天井高を含めた必要な空間の確保、床の耐荷重等について、コスト面に配慮しつつ将来需要を見据えて計画
- 自然採光を積極的に取り入れるなど、明るく安全な実験環境を構築
- 大型実験機器の設置に対応可能な十分な階高と搬入経路を確保

先端的なラボの事例

沖縄科学技術大学院大学(OIST)



※職員撮影

- 研究の変化等に対応しやすい、オープンでフレキシブルなラボ
- 隣のユニットが見えることで刺激と交流を生み出す

信州大学
国際科学イノベーションセンター



- 一つ屋根の下でのオープンイノベーションを実現する無柱大空間

出典:文部科学省「特色あるラボデザインの事例集」

名古屋大学
ITbMトランスフォーマティブ生命分子研究所



- Mix-labをコンセプトに実験室を二層吹き抜けにして、居室と一体構造化

出典:文部科学省「特色あるラボデザインの事例集」

5-1 研究開発を促進する機能 –②コワーキングスペース・コラボレーションスペース

○施設に入居する企業・大学等に加え、外部の人材やアイデアを呼び込むため、起業を目指す若い世代の人材の支援や、支援者・パートナーとの出会いの機会を提供するためのコワーキングスペース等を設置します。

- コワーキングスペース、多目的コラボレーションスペースを配置し、シード期のスタートアップや大学の若手研究者の活動スペースとすることで、異分野融合によるオープンイノベーションを活性化
- 若い研究者や技術者が自然発生的に自分のアイデアを発表し、組織の垣根を越えて集まった仲間とディスカッションできる場所の提供
- コミュニケーションマネージャーが常駐し、拠点内の研究者・技術者同士のマッチング、ネットワーキングの機会を提供

現在のKBICの機能

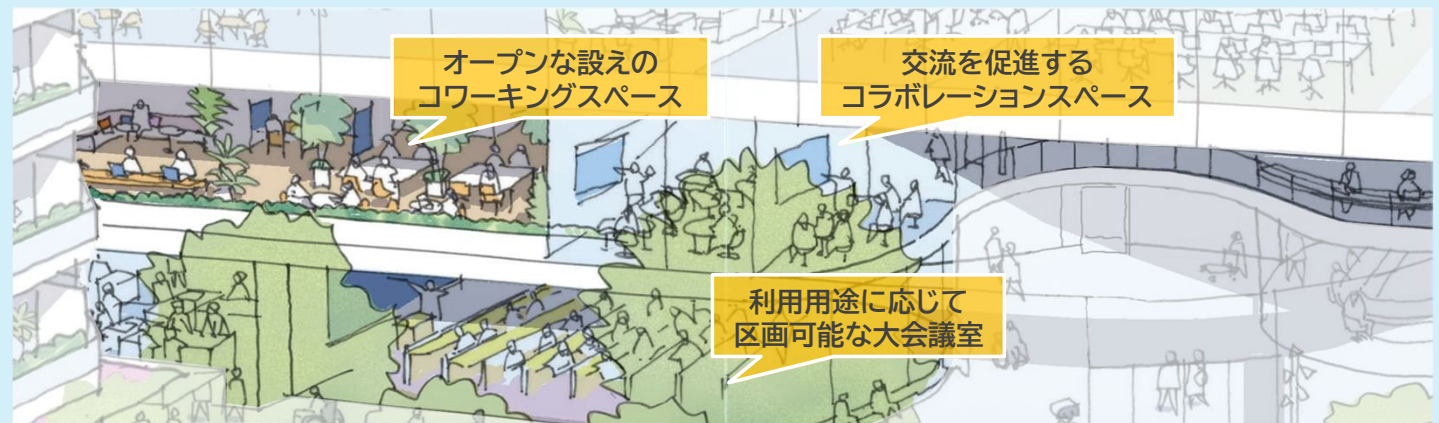


KBIC 交流コーナー



AIRBIC会議室

コワーキングスペース・コラボレーションスペースのイメージ



KOIL柏の葉
交流スペース



Tokyo Innovation Base
サロンスペース



川崎キングスカイフロント
コミュニケーションラウンジ

5-1 研究開発を促進する機能 –③先端デジタル工作機器を備えたオープンファクトリー

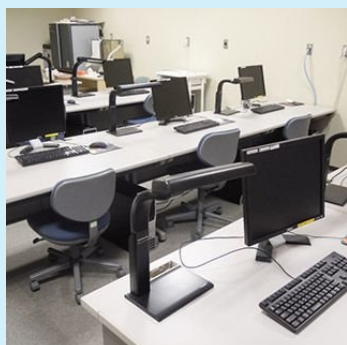
○KBICが備える、ものづくり工房、CAD／CAM室、試作室の機能を新たな施設へ再編し、デジタル工作機械を備えた、誰もが気軽に試作、製作ができるオープンファクトリーへとリニューアルします。

- 新川崎・創造のもりに入居する企業、大学の研究用途だけでなく、起業を目指す高校生や大学生が自らのアイデアを形にする場所として、また、地域の方々や子どもたちが気軽にものづくりを体験できるイベントを開催するなど、ものづくりに関心のある市民にも開かれた施設を検討
- オープンファクトリーを拠点に企業と高校生・大学生との共同研究にもつなげ、ものづくりを通じた地域課題の解決にもつなげていくことを検討

現在のKBICの機能



KBIC ものづくり工房



KBIC CAD/CAM室

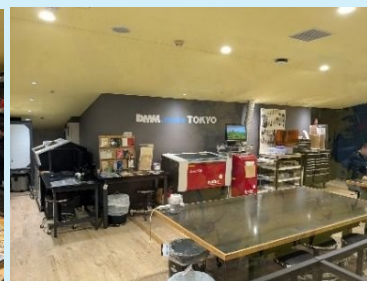
オープンファクトリーのイメージ



KOIL柏の葉
オープンファクトリー



TiB FAB
DMM.make TOKYO



SHIBUYA QWS
PROJECT BASE



出典: SHIBUYA QWS

5-1 研究開発を促進する機能 –④経済安全保障・セキュリティ・安心安全に配慮した拠点形成

○量子・半導体技術等の先端コンピューティング技術は、経済安全保障上の重要性が高いことから、オープンイノベーション戦略と経済安全保障を意識したクローズ戦略とを組み合わせ、オープン・クローズ戦略を効果的に活用できる拠点を目指します。

導入を検討するセキュリティ等の対策の一例

ハード対策

- 施設・機器へのアクセス管理、建物への入退室管理システム、監視カメラ、訪問者の管理体制構築
- オープン・クローズ戦略に基づく建物内のメリハリあるセキュリティレベルのゾーニング
- 最先端セキュリティ技術の導入検討と実証空間としての活用(セキュリティロボット、顔認証システム等)
- 地震や台風などの自然災害からの脅威に対応した安定的な電力、通信等のインフラ確保 等

ソフト・サイバーセキュリティ対策

- 拠点内での研究セキュリティ・インテグリティの強化、セキュリティクリアランス等
- 施設全体の統合ネットワークに対するサイバーセキュリティ対策、データの保護
- 入居企業の情報管理意識醸成に向けた教育・研修制度の実施、研究セキュリティ人材の育成
- 知的財産の管理、セキュリティ評価の専門家の活用
- インシデント発生時の対応方針の明確化 等

セキュリティレベル4
経済安全保障に配慮した
最高レベルの研究空間

セキュリティレベル3
企業専用の特定エリア

セキュリティレベル2
入居企業のオープンエリア

セキュリティレベル1
商業・コワーキング・ラウンジ



企業と大学でネットワーク回線を分離
JSR・慶應義塾医学化学イノベーションセンター
文科省「特色あるラボデザインの事例集」参照



会議室やギャラリー、ラボフロアを階層で
分けて、セキュリティを確保
出典：早稲田大学 リサーチイノベーションセンターHP



ガラス間仕切りで開放性とセキュリティの両立
大阪大学 サイバーメディアセンター本館
文科省「特色あるラボデザインの事例集」参照

5-2 人材の集積に関する機能 – ①オープンイノベーションを活性化する交流を生み出す仕掛け

○入居者や来訪者が自由に交流するコミュニケーションスペースやオープンスペースを、動線の結節点となる施設の低層部や各フロアに配置するなど、日常的な交流や異分野とのコラボレーションを促進します。

- コミュニケーションスペースや共用スペースなど、入居者や来訪者のカジュアルな会話が生まれる場所を設けることで、研究者同士のコミュニケーションを促進
- 階段や廊下など意図的に広くするなどの偶然の出会いが生まれる設計や、屋外テラスなどリラックスした交流の仕掛けを導入
- デジタルサイネージ等でイベント情報や入居者情報を表示し、興味を持った者同士のリアルな交流のきっかけを創出

交流を生み出す仕掛けの事例

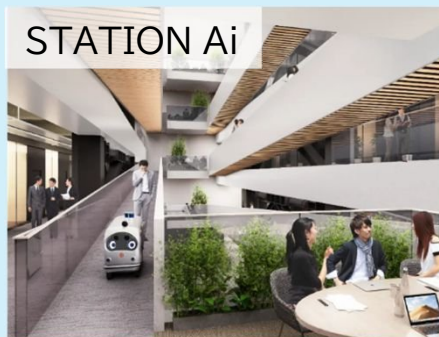
CIC Tokyo



出典:CIC Tokyo

ベンチャーカフェエリアの中心部に上階のオフィススペースに繋がる階段を設け、入居者の交流を促進

STATION Ai



出典:STATION Ai

入居者同士のコミュニケーションが生まれるよう、各階をスロープで繋ぎ、ひとつながりの空間を形成

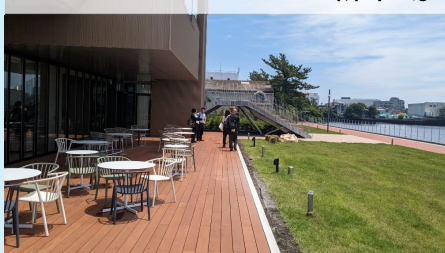
湘南アイパーク



出典:湘南アイパーク

オープンスペースを施設内の随所に配置し、カジュアルな打ち合わせのほか、ラボを離れて集中する場所としても活用

Mitsui LINK-Lab 新木場



職員撮影

施設の1階に誰もが利用できるカフェと屋外テラスを設置し、リラックスやリフレッシュの環境からコミュニケーションを活性化

AIRBIC・NANOBIIC デジタルサイネージ



施設内で開催されるセミナー等のイベント情報や入居企業の研究開発の情報をデジタルサイネージで表示し、入居者や来訪者に日々新たな情報を発信

5-2 人材の集積に関する機能 –②滞在機能・スペースの整備について

○国内外から優れた人材を誘引する機能の一つとして、研究者とその家族が、研究と生活に快適に対応できるための滞在環境を整備します。

- 研究者の短期から中期的な滞在に対応した、サービス付きアパートメントを想定
- 単身用に加え、特に海外の研究者を念頭に、世帯用の中期滞在用の居室も整備
- 短期滞在スペースは、研究プロジェクトや会議、学会等に参加する研究者・技術者の数日間の宿泊利用等に対応
- 新川崎・創造のもり地区に加え、周辺の新川崎地区の立地企業の来訪者、外部企業との交流にも貢献

滞在機能の事例

法人向け賃貸社員寮・社宅サービス等の事例

- ・企業の福利厚生として、単身社員向けのサービス付き社員寮・社宅
- ・生活に必要な不可欠な家具家電を揃えており、必要最低限の準備で生活が可能
- ・共有の食堂やラウンジ、フィットネスルームなどの共用スペースから自然とコミュニケーションを創出



家具・家電付きの居室



食堂(食事サービス付き)



フィットネスルーム

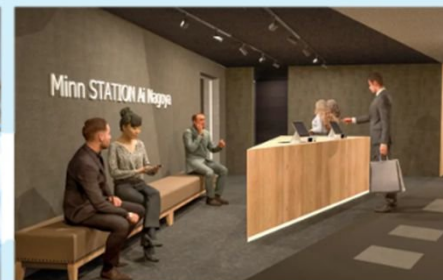


ラウンジ

職員撮影

スタートアップ支援拠点「STATION Ai(愛知県名古屋市)」の事例

- ・スタートアップの入居スペースに加え、キッチン・調理器具などを備え、家族やグループ利用に配慮したレイアウトの滞在型アパートメントホテル(Minn STATION Ai Nagoya)を施設の最上階に整備
- ・全25室で、2名定員の部屋から、最大14名まで宿泊できる部屋までを備え、同フロアにルーフトップテラスや飲食スペース、交流リビングなども併設



出典:STATION Ai

5-2 人材の集積に関する機能 – ③学校との連携等を通じた人材育成機能の充実

○学校との連携等を通じ、子どもたちが科学技術への夢を育み、多世代の人材を育成する機能の強化を検討します。

- 幸区役所と連携した「科学とあそび幸せな一日」や川崎発量子ネイティブ人材の育成を目指した「Kawasaki Quantum Summer Camp」の開催など、これまでも子どもたちが科学技術を学ぶ機会を定期的に提供
- 立地企業・大学や、令和7(2025)年4月に新川崎地区に開校予定の市立新小倉小学校等、近隣の学校との連携により、こうした取組を強化し、年間を通じた、この場所でしかできない学びの機会の提供を検討
- また、施設の配置や仕様、導線の工夫、研究成果を実装する空間の整備により、一部スペースは外部に魅せる、学ぶ、体験する、実証試験に参加する機会となる仕掛けも検討
- さらに、高校生・大学生世代を念頭に、若い世代が集まり、起業に向けた活動や、デジタル工作機械等を活用した試作を後押しする機能、仕掛けも検討

人材育成機能のイメージ

科学技術等を学ぶ場



職員撮影

- ・これまでも定期的に行っている科学体験教室は、創造のもりでしか体験できない貴重なコンテンツ
- ・発見や体験、アイデアの実現など、様々な学びを提供

技術等の見える化



出典：資生堂 HP

- ・セキュリティや経済安全保障に配慮しつつ、見学者等に技術を見せる工夫を図った設えの検討
- ・気軽にふらりと立ち寄り見学等も可能な開かれた場の検討

先端技術体験・社会実証参加



職員撮影

羽田イノベーションシティでは、運搬・警備・コミュニケーションロボット、モビリティ、ARサービス、防災技術などの未来社会を支える様々なスマート技術を導入し、施設利用者に見える化

若者世代も集まる起業・交流拠点



出典：渋谷QWS HP

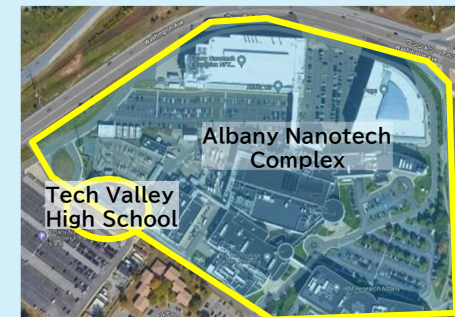
- ・渋谷QWSでは、若者世代を中心に多様な人々が集まり、様々な人と繋がれる場を提供
- ・また、3Dプリンタ等を備え、思いを形にすることが可能

次世代人材の育成



出典：Tech Valley High School

アルバニー・ナノテック・コンプレックスの敷地内には、高校(Tech Valley High School)が設置されており、科学技術に特色を持たせた教育プログラムも実施



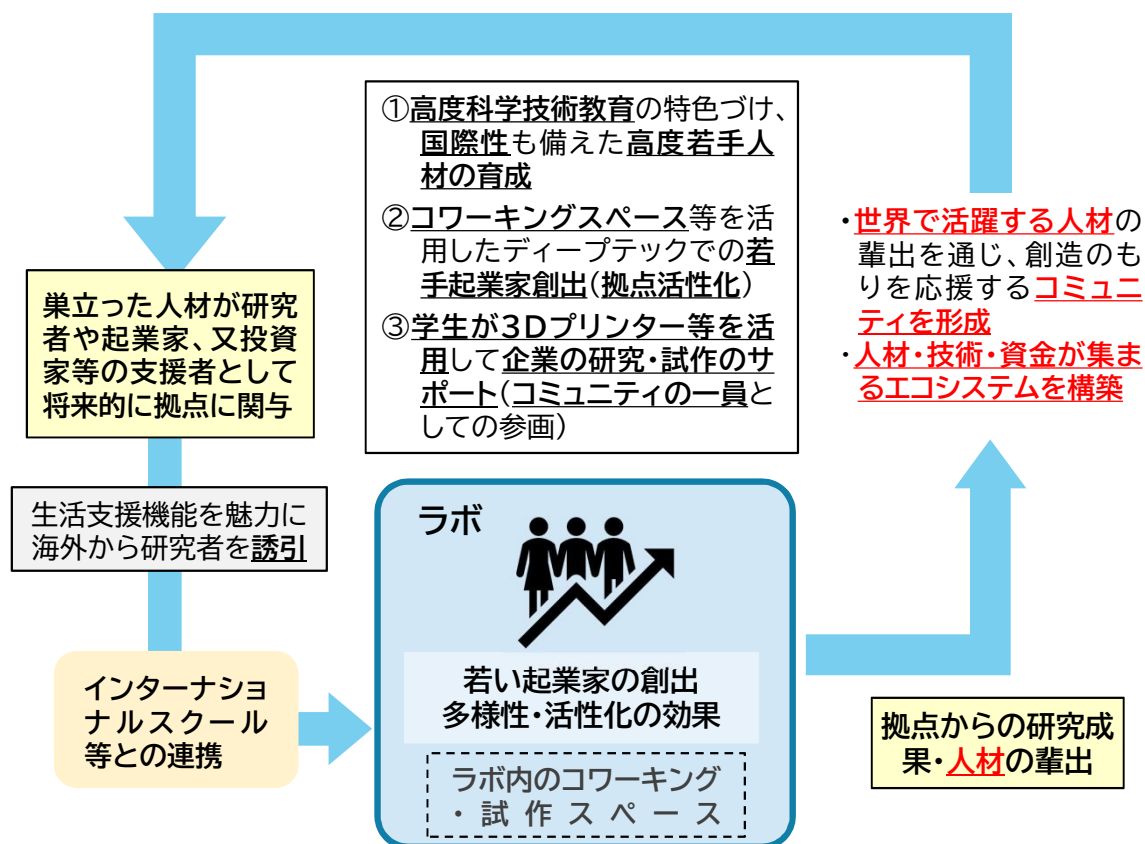
5-2 人材の集積に関する機能 -④人材の集積・育成を通じた拠点の価値を高め、活気を生み出す取組について

○海外からの研究者を誘引し、多様な人材、高度人材の集積を図るとともに、研究者・起業家の予備軍となる若い人材が集い、施設の活用や研究者・技術者との交流を行うなど、拠点の価値を高め、活気を生み出すための仕掛けを検討します。

- 高度人材の集積を目指す研究開発拠点の事例等を参考に周辺エリアを含めた市内へのインターナショナルスクールの立地誘導や近隣のインターナショナルスクールとの連携を検討
- 「5-2-③ 学校との連携等を通じた人材育成機能の充実」の取組とも連動し、インターナショナルスクールや地域の学校等との連携を通じ、科学技術に特色を持たせたカリキュラムの実施に協力することで、創造のもりの特徴を活かした教育プログラムの提供も可能
- 創造のもりで学んだ人材が、将来、研究者や起業家・投資家として、創造のもりの活動を支える役割を果たすことも期待

柏の葉国際キャンパスタウン「Rugby School Japan」の事例

- ・公・民・学連携による国際学術研究都市に向けた街づくり「柏の葉国際キャンパスタウン構想」の実現に向けた取組の一環でインターナショナルスクールを立地誘導
- ・国立大学法人千葉大学柏の葉キャンパス内へ、英国式 Year 7～ Year 13(日本における小学6年生から高校3年生に相当)の男女共学の通学制・寮制選択可能なインターナショナルスクール「Rugby School Japan」を開校



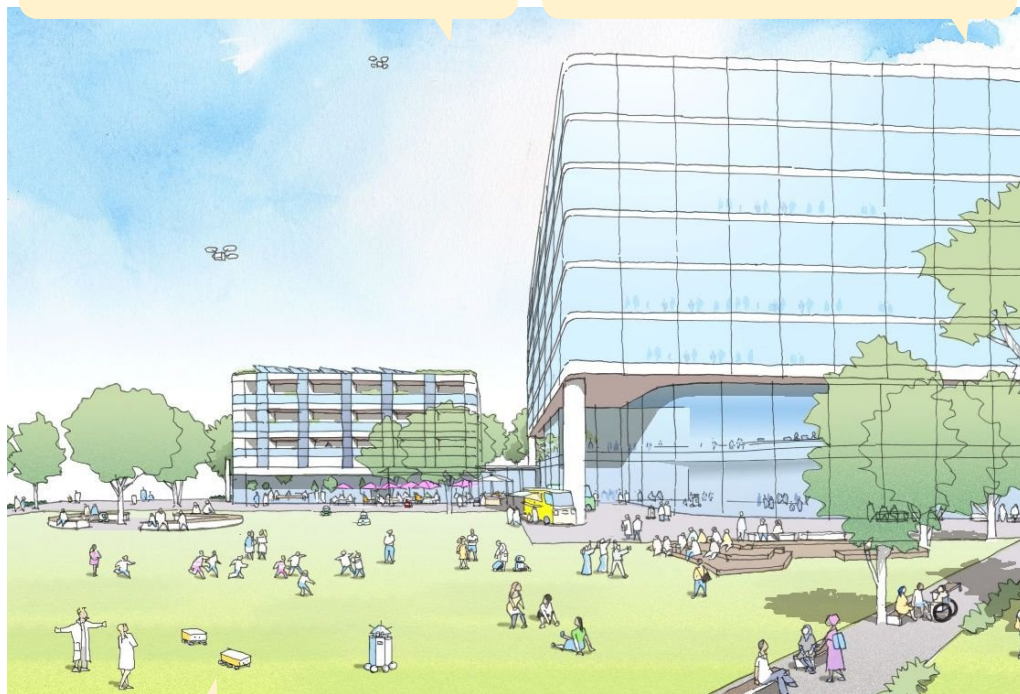
5-3 拠点の魅力向上・研究の基盤に関する機能 –①開かれた緑地と低層部の賑わい

○創造のものの回遊性を高める、居心地の良いウォーカブルな空間設計とオープンスペースの整備など地域に開かれた機能を低層部に配置し、新川崎・創造のもののエントランスにふさわしい賑わいと憩いの空間を形成します。

- 隣接する公園と一体性があり、地域住民にも開放的で緑豊かな空間
- 緑地に面した低層部へカフェやレストラン、売店を整備し、就業者、来訪者、地域住民の利便性を向上
- その時々に応じて、交流や賑わい、憩い、自然との触れ合いなど様々な活用ができる余白のある広場を設置

多様な活動を受け止めるオープンで快適な滞留空間

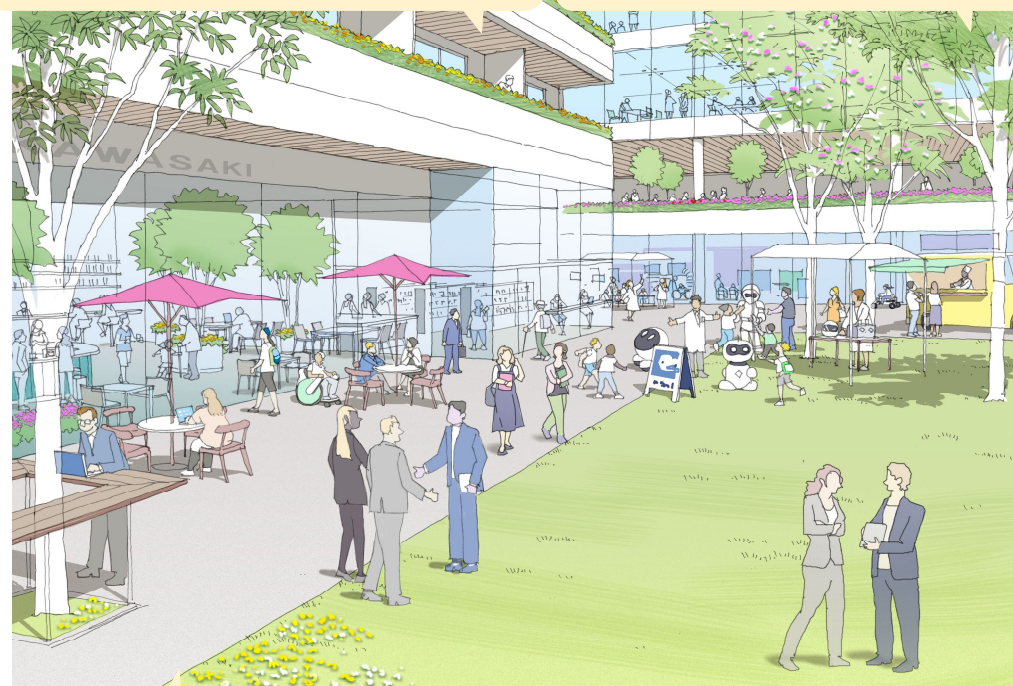
気分転換に緑に囲まれた空間で仕事ができるスペース



歩行者目線の1階部分にガラス張りの店舗やラボを配置し、歩いていて楽しくなるような空間を演出

就業者がリラックスでき、地域住民も立ち寄りたくなるカフェ・レストラン

研究活動や生活を支え、豊かにする様々な商品を取り扱う店舗



科学体験イベントのほか、キッチンカー、マルシェ、地域の催しなどの開催

5-3 拠点の魅力向上・研究の基盤に関する機能 ー②外部からの来訪促進に向けた創造のもりへの交通アクセス向上

○企業等の立地促進や、外部からの来訪障壁の低減、交流促進を図るため、交通アクセスのさらなる向上は重要な課題であるとともに、敷地内は複数の棟に別れており、施設間交流を促進する観点から、エリア内の移動を促進する工夫も重要であることから、こうしたアクセスの改善を総合的に検討します。

- 立地企業や外部来訪者の日常的な周辺駅からのアクセス改善について検討
- 利用者の自由度の高い移動手段の導入等の検討(カーシェアリングポートの新設やシェアサイクルポートの増設 等)
- マイクロモビリティを活用した敷地内の移動、交流を促す仕掛けを検討(電動キックボード 等)
- 立地企業等と連携した自動運転移動サービスの導入について検討

創造のもりの位置と導入を検討する交通手段のイメージ



現状、敷地内にシェアサイクルポートを設置しており慶應義塾大学キャンパスとの行き来や周辺への移動で高い利用頻度



等々力緑地内では、敷地内での施設間の移動等をサポートするため、電動キックボードの実証実験を実施

5-3 拠点の魅力向上・研究の基盤に関する機能 -③誰もが利用しやすい環境整備(ユニバーサルデザイン・バリアフリー)

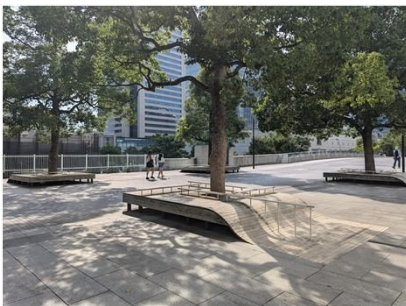
○国内外の最先端企業・高度人材を誘致するため、エリア全体のサインの多言語化、ユニバーサルデザインの視点でのエリアごとの配色、サイン計画、外構計画など、誰もがアクセスしやすく、利用しやすい環境を整備します。

- 来訪者を適切に誘導案内することを目的として、新川崎・創造のもり全体での一体性や統一感のあるサイン環境を作り、必要な情報をわかりやすく提供します。
- 多言語・ピクトグラム等を用いた案内図の設置や、その視認性を確保することにより、国籍や年齢、文化、身体状況など個性や違いに関わらず、だれもが利用しやすいユニバーサルデザインの視点を導入
- 車いす利用者や視覚障がい者など、だれもが敷地内を円滑に移動できるよう、エリア全体の段差の解消、平坦性の確保や点字ブロックの設置を行います。
- 新川崎・創造のもりのブランディングにつながるゲートサインの設置を検討します。



フラットな舗装の切り替え・舗装による視覚的な動線計画(姫路大手前通りほか)

ピクトグラムを用いたエリア全体のサインの統一と多言語対応・デジタルサイネージとの併用(川崎市役所ほか)



ユニバーサルデザインに対応した特徴的なストリートファニチャー(みなとみらいほか)

特徴的なゲートサイン(国立競技場ほか)

5-3 拠点の魅力向上・研究の基盤に関する機能 –④防災と災害発生時の対応

- 高度な研究開発機能に加え、滞在機能やアメニティ機能を備え、地域に開かれた拠点を整備することを踏まえ、入居者や来訪者の安全・安心に配慮した防災計画を施設計画と施設運営の両面で検討します。
- 量子コンピューティング技術等の研究開発においては、非常時においても安定的な稼働が求められるため、施設のインフラの冗長化による事業継続対策や、災害発生時における避難の安全性等に対応した災害に強い施設を目指します。

施設計画での防災への配慮

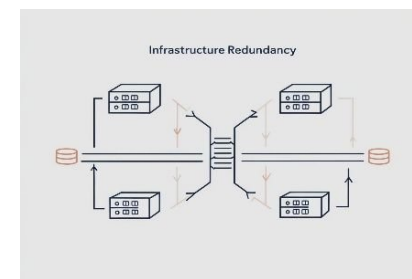
- エントランスや共用部は開かれた空間として整備し、発災時には施設利用者の一時滞在に配慮したスペースとして整備
- 施設利用者が帰宅困難になった際の一時滞在に対応することを想定した備蓄倉庫等の整備

施設運営での防災への配慮

- 当該施設の研究者の帰宅困難者対策として、セキュリティ外の共用部、会議室等を開放



セキュリティの外のスペースを一時滞在空間として開放



施設インフラ冗長化のイメージ

通常利用時のイメージ



大会議室のホワイエを兼ねたエントランス



開放的な共用部

発災時のイメージ



発災時には、施設利用者や訪問者がエントランスのホワイエや共用会議室等に一時滞在



5-3 拠点の魅力向上・研究の基盤に関する機能 – ⑤環境に配慮された施設計画

○サステナビリティ・トランスフォーメーション(SX)に貢献する研究開発拠点を目指すことから、施設計画においても、GXの視点を導入し、環境負荷の少ない施設の整備を検討します。

環境負荷の低減とエネルギー利用の抑制

- 太陽光発電設備(次世代型を含む)等をはじめとした再生可能エネルギーの導入促進
- 新川崎・創造のむりの大学やスタートアップの研究成果による先進的な環境配慮技術の積極的な活用の検討
- エネルギー利用の抑制で、脱炭素社会実現に貢献する低環境負荷施設の整備

高効率な空調システムと照明計画

- 研究環境に応じた空調システムを適材適所で整備、高効率照明の利用の検討

緑化とヒートアイランド現象対策、木材の積極的利用

- 屋上緑化や壁面緑化による建物の環境性の向上とヒートアイランド現象対策の実施
- 「川崎市建築物等における木材の利用促進に関する方針」に基づき、国産木材の積極的利用を図る

施設整備における環境配慮制度への考慮

- 川崎市建築物環境配慮制度(CASBEE 川崎)を考慮し、環境配慮技術の導入について費用対効果を含めて検討



太陽光発電設備のイメージ



壁面緑化のイメージ(キングスカイフロント)



内装の木質化(NANO BIC)

5-4 本市が設置・運営するスペース

○機能更新による施設整備・運営は民間主体とし、本市は、外部の多様な人材を呼び込むための次の機能を設置・運営し、拠点の活性化への貢献を目指します。

- 入居企業同士の日常的な出会いと交流の場の創出に加えて、外部利用者を呼び込み、起業家予備軍を誘引・育成、施設利用者同士の交流を促すためのコワーキングスペース(5-1-②)
- 日常的なミーティングやセミナー開催等に対応した多目的コラボレーションスペース(5-1-②)
- アイデアの具体化・試作を支援するための先端デジタル工作機器を備えたオープンファクトリー(5-1-③)

種別	主な内容	想定面積
コワーキングスペース	コワーキングスペース、登記可能な個室スペース、多目的コラボレーションスペース等	約800～900㎡
オープンファクトリー	レーザーカッター、3Dプリンタ等	約200～300㎡
合計		約1,000～1,200㎡

- 将来の変化の大きさや不確実性等を見据え、その時代の社会環境や技術開発のトレンド、支援のニーズに合わせて柔軟に機能や規模を変化させることができるという点から、必要な床面積を民間整備事業者から賃借し設置します。
- また、本市が設置・運営を想定するエリア(約1,000～1,200㎡)は、本事業の全体想定整備面積(約49,000㎡)に対して小規模(約2%)であり、買取での区分所有を行うことは整備・取得段階、維持管理段階等の効率性が低く、事業者メリットが低いことなどからも、民間整備事業者から賃借で設置することが適しています。

※コワーキングスペース等の設置・運営にあたっては、交付金や外部からの支援の活用も検討(後述のとおり)

5-5 外部資金を活用した拠点運営の検討

○外部利用者呼び込み、起業家予備軍を誘引・育成、施設利用者同士の交流を促すためのコワーキングスペース、アイデアの具体化・試作を支援するための先端デジタル工作機器を備えたオープンファクトリーは、整備費・運営費の一部に寄付金等の活用による設置、運営を検討します。

○他都市の事例から起業家やスタートアップ支援への寄付には一定のニーズ

- 寄付金等の活用を通じ、本市の負担を軽減
- 外部の支援者を募り、設置・運営に関わっていただくことで、拠点の応援団を集め、エコシステムを構築する呼び水に
- 若い世代の人材や起業を目指す個人と支援者が偶発的に出会い、交流するチャンスの誘発
※デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生拠点整備タイプ)の活用も検討

